

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第14回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成22年8月31日(火) 午後4時05分～午後6時40分	
会場	練馬区役所本庁舎19階 1906会議室	
出席者	委員	村松賢一、荻部一夫、当間一則、山口義一、加藤芳和、武井和幸、井上康子、三浦秀樹、根本喜代江（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事

事務局

表現力の育成部会を始めさせていただく。はじめに部長とアドバイザーからご挨拶をいただきたい。

部長

暑い日が続く中、ご出席いただきありがとうございます。今後の見通しとして今日と、あと1回やるかどうかで収めたいと思う。前回いただいた様々なアイデアで、大筋として方向は定まったと思うのでよろしくお願ひしたい。

アドバイザー

いよいよ大詰めなのでよろしくお願ひしたい。

事務局

本日、前回の要点録を資料としてお配りした。ご覧いただき修正してほしい点があれば、お知らせいただきたい。

では、皆さんからの提案の検討を進めていただき、協議をお願ひしたい。

部長

今回も全員揃ってはいないが、前回欠席した方のために、要点録の終りのほうをご覧いただき、最終確認させていただいたことをこの場でもう一度確認したい。

第13回表現力の育成部会 要点録【検討内容の確認と課題の再検討結果の概略】参照

これらのことを踏まえて事例の検討に移る。下の学年からで、まず2学年生活科「自己紹介をしよう」など3事例についてお願ひしたい。

委員

前回提案できなかったのが今回もってきた。生活科の自己紹介だが、パソコンで名刺を作って活用してはどうかということで、2年生で考えてみた。活動のねらいは「自分の得意なことを文にして表現する」「名刺づくりを通してコンピューター機器の取り扱いになれる」「名刺を

配りながら多くの人との関わりを持ち、自己紹介する」とした。

表現力との関連では、名刺づくりによりコンピューターを使った表現する技能に慣れさせたり、名刺を自己紹介する時の一つの表現手段として使い、多くの人と関わりをもつことで、表現力が高まるのではないかという観点で書かせていただいた。

小中一貫教育校で期待される効果では他の学年との関わりということではなく、第Ⅰ期が表現力育成の醸成期であり、自分のことを多くの相手に表現していくことが大事という観点で書いた。名刺を配って自分を表現し、相手から質問されればコミュニケーションも生まれるのではないか。またコンピューターを使った名刺づくりで ICT の素地もできてくると考えた。

活動の流れとしては、最初は台紙に手書きで自己 PR を書き、それからパソコンで作り直す。顔写真を入れるのが良いかどうか分からないが、入れる場合はデジカメで撮り、表現に関する技能として自己 PR を入力できるようにする。担任一人の指導では難しいと思うので TT でやれるといいのではないかと思う。

名刺が 10 枚できたらクラスの中で練習をする。ただ渡すだけではなくしっかり相手に伝え、質問に受け答えすることで言葉を組み立てる力になるのではないか。またその後の時間では、学年、先生方、主事さんたちと友達以外の対象に広げることで、どんな言葉使いをしたらいいかという態度・相手意識にもつながるのではと考えた。随時というのは地域活動の時にも活用できるのではと思い加えた。最後に作品例として、名前と短い文章の自己 PR でこんなものが作れればと考えてみた。

第 3 学年「練馬大根博士になろう」は活動のねらいを総合的な学習の時間のねらいに直してある。小中一貫教育校で期待される効果のところも全体発表ではなく、グループ発表という形で書き変えてある。最後に場の設定として、こんな形でできたらいいなという図を入れてみた。

第 6 学年「身近な人々の暮らし」では、中学校の職業体験につなげるために、地域で働いている人について考え、町への愛情を深めていくことがねらいになるのではと思い考えてみた。

表現力との関連では質問、インタビューすることで相手意識が育ち、グループで話し合ったり、アイデアを出し合い、調べたことをまとめる活動を通して、多様なまとめ方が身に付くと考えた。小中一貫教育校で期待される効果としては職業に対する意識が生まれてくることで、職場体験の興味づけになってくるといいと思う。

指導計画についてはグループごとにテーマを決めてインタビューに出かけ、クラス発表会、学年発表会を行うという流れだが、職業体験に行った 8 年生との関わりがうまく出しておらず、途中みたいな感じで申し訳ない。

部長

ここまでで何かご質問、ご意見はあるか。

事務局

「自己紹介をしよう」では 2 年生が中学校校舎にいる 5・6 年生や 7・8・9 年の先生と関わることで、地域に広げなくても、小中一貫ならではという話がプロット 2 と 3 でできると思う。ただ、活動のねらいが生活科のねらいになっているかなと思う。

委員

ねらいの最初の「自分の得意なこと～」というのは自分でも国語的かなと思った。生活科をよく知らないので教科書を調べてこういうふうにしたが、自分で体験してみるというようになればいいかなとも思う。

部長

活動のねらいについて再検討いただきたい。練馬大根のねらいも括りが大きすぎるので、活動に沿って具体性のある書き方のほうがいいのかと思う。場の設定などの資料はとても良い。

名刺はクラスで10枚、そのあと学年、先生と全部で30枚くらいいることになり、子どもにとっては結構大変だと思うが、実際にこの名刺をパソコンで作ってみたか。

委員

作ってはいないが、枠を作っておき、そこに字を入れるという感じになるかと思う。

部長

1枚作れば自動的に10枚分になるならいいが、コピー&ペーストしなければならないなら子どもにはできないと思うし、教師が手伝うとなるとそれだけで拒否反応を示すかもしれない。

委員

名刺交換などをするとすぐに落としてしまう子どもも多く、自分の名刺が捨てられたと感じる子もいる。家で捨てる分にはいいが、写真がついていると捨てるにも気が引けるし、地域に持っていく場合は顔や名前が特定され危険な面もあり、取り扱いが難しい。

委員

写真については私も引かかっていたので、似顔絵でもいいかと思う。全部手作りでもいいが、ICTを何とかくっつけてみようと思いつきながら作った。

事務局

2年生のレベルにあったICTの素地というのはどういうものか。

委員

うちではローマ字打ちで3年生から。2年生ならひらがな打ちでもいいと思うが。

事務局

確かにプランには沿っている活動だと思うが、疑問なのは生活科として扱うのが適切かどうか、子どものレベルに合っているか、そして名刺の取り扱いの問題だ。結局は教員が作って苦労をしそうな予感がする。

委員

枠だけ書いたB5くらいの用紙を配り、大変だけどいろいろなパターンで手書きし、画用紙

にコピーして切ればいいのでは。カラーではないが仕方ない。

委員

少し色塗りをしてもいい。ICTに関しては切り離した方が無難か。

事務局

自己PRで好きなもの等を書くときに、お絵かきソフトを使って取り込むのは可能か。

部長

スタンプというもので好きな絵を選び、マウスをクリックして入れるというのは1年生のレベルでもできると思うが、文字入力には難しいかもしれない。

委員

名刺の台紙づくりをお絵かきソフトで行い、そこに自分の名前を手書きするならICTも絡められるのではないか。

部長

自分の名前を入力するだけなら何とかできると思うが、自己PRで自由記述のようなものが入ってくると45分ではできないと思う。

事務局

名前の入力と好きな物をスタンプで入れることが可能なら、読むのではなくイラストを基に自分の言葉で話すというところにつながる。

部長

1年生がどの程度できるか、実際にやってみて連絡させていただきたいと思う。

事務局

小学校と中学校の校舎が地続きになったので、小中一貫として校舎の行き来というのは意識できるかと思う。ちなみに「自己紹介をしよう」も「練馬大根博士になろう」も2ページだが、4ページとかに膨らむ予定なのか。

委員

実践したものではないのでこれ以上膨らまなかった。

委員

「練馬大根博士になろう」のプロット5の各教科と領域の関連については扱いを検討することになっていたが、どうすればよいのか。

事務局

このプロット5は、プロット2・3に書ける場合があるということで、部会によってはないところもある。関連や系統だけをやっていくと、小学校の先生は小学校だけで完結し、中学校の先生は中学校からしか書けない場合が多い。最初のフォーマットではプロット2・3がなかったのがプロット5が入っていたが、現在のフォーマットではプロット5はなくてもいい。一番大切なことは指導計画を見てもらい、9年間の中でなぜこの学習がここにあるのかという位置付けや、どう発展していくかということのを常に意識してもらいたいと思う。

委員

中学のことはよく分からないので無理に載せず、外してよければ外したいと思う。

部長

削るのは後でもできるので、一応載せておいてもらいたい。

アドバイザー

プロット5があると先生たちはどういう利用の仕方ができるのか。

部長

互いに意識して行うことで、同じ活動でも別の観点で指導できたり、別々のちがった活動でも同じ観点で指導したりすることができる。

アドバイザー

これは年間指導計画を立てるときに便利なのか。

部長

全体の流れを考えるとときに便利だ。では次に「下級生が楽しめる『お話し会』をしよう」と「夏休み体験発表会を開こう」の説明をお願いしたい。

委員

今回の資料にはプロット3と指導計画の時数が抜けているので、後で入れたいと思う。「下級生が～」については前回のものに資料として具体的なプログラムや写真を入れ、実際にどんな様子かがイメージできるようにした。最初のグループがパネルシアター、次が人形劇、その次が人間の劇で最後は1対1の読み聞かせをするという流れで、実践があったので何とかあった。

次に「夏休み体験発表会を開こう」というものを5年生で考えてきた。久しぶりに会うということで夏休みの体験を発表する。1年生で実際にやった時は三つの文を見ながらとにかく話すという形でやったので、5年生ならばノー原稿とも思ったが、急には難しいだろうと考え、必要に応じて見る発表メモという形にした。指導計画は夏休みの体験を三つぐらい挙げ、一番話したいことを決めたあと構成を工夫しながら発表原稿を書く。それを基に発表メモを作って発表の練習、発表会をするというもの。次のページには発表メモを作って練習する時間の指導案を載せた。実践したものではなく、写真も資料も載せていないので2ページで終わっている。

部長

プロット3と時数を入れることをお願いしたい。写真やプログラムなどの資料が入り、授業がイメージできる。他の事例についてもできるだけこういう形にしていきたいと思う。

事務局

「下級生が～」というのは5時間抜いくらいだと思うが、学級活動で5時間もとれるか。

委員

1、5時間目は学活で2～4時間目は朝の会や休み時間をうまく使いながら実践した。

部長

うちの学校でもやっているが高学年から低学年への読み聞かせというのは、子どもたちが一生懸命に取り組み、すごくいいと思う。夏休み体験発表会についてもいろいろな学級でやっているの、写真を撮っておきたいと思う。

事務局

先ほどの説明で、1年生なら文を三つくらいだが、5年生になったら発言メモという段階を迫った発展性・系統性を意識した発言があり、大事なことだと思う。そういったことを意識していけば語い力にも結び付くだろうし、9年間でいろいろな力がついていくと思う。

プロット3には1年生ならこうで、5年生だからこうといった発展性を意識した書き方ができればと思っている。ちなみに5年生というのはメモを見て、きちんと文章が発表できるように仕上がっているものか。

部長

積み重ね次第だと思うが、我々の願いとしてこういう形でやってほしいという子どもの姿をイメージして書いたほうがいいと思う。

事務局

この場合、時間や文章量でいうとどれぐらいの発表を目指しているのか。

委員

長くて1分くらいかと思っていた。

部長

メモだけなら30秒程度ではないか。発表する内容によっては写真を示したり、物を持ってきて見せたりすることも可能だとは思うが…。

アドバイザー

発達段階を考えると、分量として30秒というのは低学年の目安で、5・6年生ならばやはり1分ではないかと思う。

部長

では次に「話し合いをしよう(ミニ・ディベート)」の説明をお願いしたい。

委員

前回まではディベートが大きく前面に出ていたが、5年生には大げさすぎるかと思い、目標を下げて「ミニ・ディベート」とした。話し合いのテーマもより身近なものや、前回皆さんからご提案いただいたものを入れている。勝ち負けをつけることが目的ではない事などを2枚目に「話し合いのねらい」>「話し合いのルール」として入れてみた。その他に資料としては「ワークシート」と「話し合い(ミニ・ディベート)メモ」をつけている。

部長

だいぶ分かりやすくなったと思う。話し合いのねらいやルールといったスキルのなものも大事で、教えていく必要があると思う。これは集団議論になるのか。

委員

36人学級を想定し、3対3で六つの班に分ける。自分の意に反する立場になる人もいると思うが、勝ち負けではなく、どうやって意見を主張していくかということを目指している。

委員

どちらが正しいかではなく、自分の意見を言い、相手の意見を聞くことで最終的に歩み寄ればいい。テーマによってはこうすれば社会はよくなるのではないかという話に結びついたり、社会事象に目を向けていく素地にもなるだろうと思う。

アドバイザー

話し合いにはいろいろなやり方があるので、肯定側の一人が話をしてまとめた後、否定側の一人がそれに対する質問をするといった進め方を、ある程度示した方が分かりやすいのではないか。それから話し合いの時間としてはどのくらいを想定しているか。

委員

1つの班が15分くらいで1時間に3班。2時間かけて行うことを考えている。

事務局

国語の5年生で討論という形でディベートが初めて登場する。私が引っかかっているのは、これを総合でやる意味は何かということと、国語でやることと総合でやることのどこに線引きをするのかという議論が出てくること。話し合いはやはり国語だと思う。総合でやるとすれば大きな意味が必要になる。

委員

総合のねらいは自ら課題を見つけたり、調べ、考え、主体的な判断をしたりすることなので、総合にしてみた。AかBかの決着ではなく「環境か自然保護か」というテーマなら、こういう

社会になればいいよねという話に進んでいけば、国語の領域でなくてもいいのではと思う。

事務局

総合として話し合いをするための目的がよりよい社会をつくるということであれば国語とは違う。総合でやる場合は、いろいろ議論した結果、皆が今後どういうふうに行動できるかというテーマやまとめ方が必要になってくる。しかも国語でやったことをさらに活用するという視点を持ってもらわなければならない。

アドバイザー

そうすると話し方を学ぶことよりテーマがすごく大事になる。扱いにくいという声も聞くが「小学生に携帯電話は必要か」というのは、そういう意味ではすごくいいと思う。

部長

携帯電話は必要だという派も、こういう危険性があるのだということを十分知って使うとか、自分の生き方や価値観に関わるような内容がいい。

事務局

携帯であれば本区では小学校5年生と中学校2年生で情報モラル教育の講演会があるので、それをとっかかりにして、自分たちの話し合いをしていくことは可能かと思う。

部長

いいアイデアが出たので、1時間目は学校行事で情報モラル講習会にする。いま1時間目になっているものを2時間目にして、話し合いをする。テーマは「小学生に携帯電話は必要か」だけでいいのではないかな。

事務局

それを中学校2年生に思い出させるなど、いろいろ使いようがあるし、本区の特徴を生かしたうえで総合として発展させるという点で説得力も出てくると思う。

部長

最後の総合評価のメモのところは、観点が工夫した点、説得力があった点ということだが、ここはどうか。表現力に関わった項目があってもいいのかと思ったが、あまり細かくやらない方がいいかな。

事務局

総合としてのメモということになるとちょっと工夫が要ると思う。いろいろな小学校の発表の資料があるので提供したいと思う。

委員

助かる。確認だがテーマは一つで全ての班が同じテーマを話すということではいいかな。

部長

繰り返されると飽きるような気がするので、聞き手がこんなにいる必要はないかもしれないが、相手の話し合いを客観的に聞いて、説得のために工夫された点を評価することも大事だ。

アドバイザー

ならば教室を半分に分け、三班ずつにすれば2回聞くだけで済むのではないか。

部長

それでは今までの議論を踏まえ再度お願いしたい。次に移り「未来のために」「環境から学ぶ」の説明をお願いしたい。

委員

プロット2と3の文章を起こしてきた。「未来の～」の方ではそのまま使えるように、4ページ以降に舞台図とセリフ、子どもの役割分担を書いてみた。流れは変わっていないが、少しでも多くの子の居場所がある舞台にするため、全員が一役か二役に関わるような形にした。

「環境から～」は特に変わっていないが、この場面ではプロジェクターを使ってはどうかとといった文言を加えたくらいだ。

部長

すごくイメージしやすく、こんな感じなのかというのはずいぶん具体的になったと思う。

委員

ドラムジカは既成の曲を並べて、その間を子どもたちが自由につないでいくものなので、ここまでしっかり台本のように作ってしまうと本来の良さは消されてしまう。ただ一回経験して、こんな風にもあんな風にもできるということに思いが行けばいいと感じる。

部長

あくまでも活動例なのでテーマが環境問題でなくてもいいし、子どもたちと一緒に作っていきけるということが読み取れればいい。

委員

プロット2にドラムジカがどのようなものかという説明を入れてはみたが、十分に表しきれしていない。すごく簡単な例では6年生を送る会で、各クラスが6年生にプレゼントする歌を自由に選び、その間にセリフを織り込んで学年の発表にするだけでも一つのドラムジカの舞台になる。ここまで仰々しく書いてしまうことはどうなのかと危惧している。ただ、やったことのない先生には自由に作っていきける利便性が理解できないと思う。

事務局

この通りやりなさいということではないので、イメージできるように、あるテーマでやった一例を載せるという言葉をどこかに書いておけばいいと思う。

部長

それでは活動例のところに、いろいろなやり方があるが、これはほんの一例だということと、プロット2のドラムジカの意義みたいな説明を入れていただきたい。もし余裕があれば最初に歌を選ぶといったドラムジカ作りの基本や手順のようなものが入れられればより分かりやすい。

委員

了解した。入れてみたいと思う。

部長

「環境から～」の方は中学生なので具体的なところを少し省いたとのことだが、ページの構成上、順番はどうなるのか。部会で決めればいいのか。

事務局

組み方は何とでもなると思う。

部長

ならばこちらはもっと簡略したものでもかまわない。ドラムジカについては何ページ参照とか、具体的な台本例がここに載っているといた案内を入れれば代用できる。

では、最後に語い力をお願いしたい。

委員

「質問する」は生活科、「モードチェンジ」は国語科で扱うということに前回決まったのでプロットの1、2、3を変えてきたが、比較的出しやすかった。

「読書の推進と読後の表現活動」は全期を通して読書を推進し、読後には何らかの表現活動を行うという形で作ってきた。ただ、どこで扱うかという点で悩んでいる。前回は総合で扱ってはどうかと思って出したのだが、中学校なら総合でも扱えそうだが、小学校の場合は学活の中でしか扱いにくいようなので、そのあたりご指導いただきたい。

事務局

小学校は3年生以上しか総合の時間がない。中学校ではどんな時間にやっているのか。

委員

朝の時間に読書タイムを作ってどこにも属さない時間でやっている。総合にはカウントしていないので、学級の時間かもしれない。国語でやることはできるが、全期を通して国語の時間にやることには抵抗がある。

部長

カリキュラム作成の部分で、始業前の15分をこれにあてるといった提案はできないのか。あくまでも表現力部会というのは教材の提案だけなのか。

事務局

可能だと思う。むしろ総合的な学習の時間でやることの方が難しい。朝学活というのは学活とは違い特別活動ではなく、課外活動ということになる。新しい国語の教科書には読書の紹介がたくさんあり、国語の時間にやるのはとても無理だと思うので、それを活用し朝読書の時間や読書習慣にやってみようという形にする。読むだけでも成果はあるが、本の帯や読書郵便など発達段階に応じた活動もいろいろあって効果的だと思う。

部長

そういう意味では、ここに紹介してある活動内容のもう少し具体的な資料というのはつけられないか。全部とは言わないがイメージ的にあるといいと思う。読書新聞作りで作った作品などはないか。

委員

読書新聞はないが本の帯ならある。

事務局

誰かにこの本を読んで欲しいと紹介する「読書郵便」も楽しいと思う。

委員

では事例として本の帯と読書郵便を入れる。

事務局

その他に語い力が読書活動によって培われるという理論づけの文章は必要になってくる。指導計画の最初に、語い力について本部会ではこのように考えてこういうふう提案するという形で入れるしかないと思う。

委員

確認だが、「ブックリストの作成と発表」は活動内容の一つを取り上げる形で入っているのだが、先ほどの本の帯なども同じように載せるということか。それとも活動例としてか。

委員

それぞれの活動にねらいや表現力との関連があるよりも、活動例としてたくさんあったほうが、資料としてもらう立場からするといいと思う。

部長

では活動例として願います。最初のページはこのままの形で、以降は1ブックリストの活動の事例はこう。2は本の帯の制作についての活動で、実践する時の注意事項などがあればそれも入れる。作品があればのせてイメージしやすくする。読書記録ノートをかわいく作っている子もいるので、借りられる作品があれば借りてきたいと思う。

事務局

一番気になるのは、どの時間でやるにせよ誰が指導するかということ。小学校の先生は全科をやるので、割とすんなりいくと思うが、中学校では国語の先生がやればよいということなりかねない。その場合は位置付けが重要で、9年間を考えてこういうふう提案するので、小中一貫校で読書の時間や読書週間を作ってくださいと。

部長

カリキュラムとしてこんなことをやります。だから学校中の先生が読書活動については関わってくださいという提案を、表現力部会ですればいいか。

事務局

読書活動を推進するため大事なことは国語の先生がいないからできませんと言わせないこと。

委員

確認だが、いろいろご意見をいただいたことを1枚目に文章化して載せ、2枚目以降は資料としていろいろな活動例を入れていくということによいか。

事務局

自由読書だけだと自分の興味があるものや、やさしそうな本ばかりで語い力を伸ばすための難しい本に挑戦しなくなる恐れがある。加えていただけるなら全員が一斉に読む課題図書のようなものがあれば、語い力の獲得に役立つと思うが。

委員

課題図書の設定も考えてはいたが、自由読書という立場で書いたので入れなかった。ブックリストを例として挙げたのは、量を読むこととブックリストを紹介することで、質を高めていくのによいからだ。子どものリストに偏りがある場合は、指導者の読ませたい本を提示することも可能なのでブックリストをもってきた。課題図書も入れていいのか。

部長

なぜブックリストが必要かという今の説明はすごくよく分かったので、ブックリストの事例のうえに文章化して簡単にに入れてはどうか。課題図書についてもご提案いただいたので、具体的なものが挙げられるなら載せていただきたい。

事務局

語い力については心配だったが、だいぶ明るい未来が見えてきた。次回までの課題の確認として、私の方からはディベート関係の資料を提供すること。それとドラムジカなど詩や歌詞、著作物の著作権関係についてはコンサルの方に調査をお願いしておいた。

アドバイザー

質問だが、表現技能を身につける活動で、1年生で「質問する」、中学校1年で「聞き手に応

じてモードチェンジ」となっているが、どうも単発的に感じてしまう。どちらもコミュニケーションとしての表現力を意識していると考ええると納得できるが、それであれば TPO に応じたものがもう一つくらいあったほうが、発展性が分かるので考えてもらったらいと思うが。

委員

時間があるなら別だが、読書の方もあり、私には無理だ。

部長

TPO でⅢ期なのでぜひ中学校の先生にお願いしたいが。その前に確認だが、「人に自分を知ってもらおう」というのはどういうふうに収めるのだったか。

委員

ここのところ欠席が多く、最初に作ったものを皆さんで検討していただいたと思うが、どう直していけばいいか分からない状態だ。

部長

基本的には作っていただいたものを、会のはじめに確認したことに沿って、作り直していただきたい。それから「職業調べ」と「職場体験」についても担当の委員は、冒頭に確認した書式に合わせて作っていただきたいと思う。

それと TPO に応じたというあたりで、実社会に出た時の模擬的な場面をセッティングし、子どもたちが活動し、コミュニケーションが取れる事例。例えば自己紹介から始まり、自分の言いたいことを伝え、質問したりされたり、最終的にはきちんとお礼を言って帰ってくるといった活動で誰かつくれないか。

委員

職場体験で、訪問する前にクラスで練習させるが。

部長

表現技能を身につける活動としてⅠ期もⅡ期も1時間扱いでやっているのだから、職場体験の前の1時間を実際に模擬体験してみる事前指導にあてるというのでどうか。

委員

了解した。指導主事が「職業調べ」と「職場体験」のどちらか一つにしようといっていたのだが、二つ必要なのか。それとも一つでいいのか。

委員

話は変わるが、表現力の指導プラン例を考えていく時、どうしても ICT の活用の事例が欲しいという話があったが、いまのところ一つもないと思うが。

部長

職場体験の最後の発表では、ICT を使ってやったりすることもあるのか。

委員

模造紙で説明したりはするが、パワーポイントなどではやったことはない。

部長

中学校ではパワーポイントを教える時間がないので、小学校で使っているプレゼンソフトを利用して発表することにすれば小中一貫としていいかもしれない。実践していなくても想像して書くしかない。

委員

最終的に「職業調べ」と「職場体験」のどちらか一つを削るのか。

事務局

「職場体験」はキャリア教育でも出てくるので、「職業調べ」でうまく ICT を活用した事例にまとめるといふのでどうか。

部長

記憶が定かでないが、「人に自分を知ってもらおう」というのは、なぜ中2と中3に分かれていたのだったか。

委員

最初から分けてと言われた気がする。ノーマル原稿でとなると時間をどのくらいにするかという点が、発達段階で多少違うだろうということで分けたのかと思う。一緒でもいいか。

事務局

中2なら2分だが中3では2分半を目指す。あるいは中3は3分だが前段階の中2では何分というようなことをプロット1～3に書けばどちらか一本で済むと思う。

アドバイザー

どちらかという到達点である中学校3年生を中心に考えた方がいいと思う。社会に出ていく際にこれぐらいのことができるというのが目標であるから、中3の事例とした方がいい。

委員

では中3にスポットを当てて作ってくる。

委員

私の方は、職場体験の事前指導をⅢ期、職業調べを中学1年生で作ってくる。

部長

それでは忙しいところ大変申し訳ないが、今日の話を踏まえて、9月17日までに直した資料をメールで指導主事宛に送っていただきたい。

(第15回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認)

10月7日(木) 16:00～

場所：練馬区役所本庁舎 11F 1102 会議室

事務局

いつも長引かせてしまい申し訳ない。いいものになってきていると思う。
ありがとうございました。